

氏名：牟田口 章人

所属：帝塚山大学文学部教授

発表のタイトル：遼・蕭氏貴妃墓発掘ガラス器の日中共同修復事業と墓室内のVR復原

発表要旨（600字～800字程度）：

中国内蒙古自治区錫林郭勒盟多倫県にある蕭氏貴妃墓は2015年に発見され、内蒙古文物考古研究所が緊急発掘を行った結果、遼第六代聖宗の最初の皇后でありながら宮中の政争に巻き込まれ貴姫の位に貶められ、西暦993年、死に至った女性の墓であることがわかった。墓室内からは当代第一級の副葬品と共に薔薇水を入れたガラス器も4点発掘されている。遼時代の皇帝の家族墓が発掘によって明らかになったのはこれが初めての事で、2016年度の中国考古十大発現に指定された。本職は中国内蒙古博物院の学術委員会委員であることから博物院より発掘ガラス器の修復を依頼されたので、住友財団海外修復助成事業の支援を受け我が国のガラス修復の第一人者と共に2年に亘り訪中、内蒙古博物院の修復センターの学芸員を指導し日本の修復技術を伝えながら、バラバラだったガラス器2点の修復を終えた。この事業は今後も継続をする予定である。

ところで蕭氏貴妃墓の墓室内で見つかった墓誌銘の解読により後世の文献資料では分からなかった遼の宮廷に関する新事実が次々に明らかになっている。墓誌銘によれば蕭氏貴妃の死後、聖宗の母蕭太后が風水師（勘輿師）を各地に派遣、慶雲山に最初の墓を造らせたが、宮廷闘争が止まず、現在の地に改葬された、ということがわかる。

遼史に拠れば、慶雲山は熟年に至った聖宗が狩場としてこの地を愛し、死後はこの地に埋葬をして欲しい、という遺言があり、続く興宗・道宗と三代の皇帝陵となった、と記載されている。墓誌銘は遼史の記述に訂正を迫るものである。また聖宗が亡き蕭氏貴妃を懐かしんで墓地を幾度となく訪れ行宮（捺鉢）を営んでいたことが周辺の発掘調査によって明らかになった。皇帝の捺鉢の発見も遼代考古学上はじめてのことである。

本職は現在内蒙古自治区文物考古研究所と共同で蕭氏貴妃墓の3DデータをもとにVR復元を目指している。発表ではその成果も一部公開したい、と思うものである。